

農と医の連携促進モデル事業の補助金交付候補者として採択された事例

事例1 JA女性組織員によるリハビリ農園の開設

①事業実施主体

JA女性組織員有志11名によるボランティア組織

②事業の目的

リハビリ農園を開設し、認知症の高齢者を中心に、近隣福祉施設利用者や高齢者に開放。農業を通じて高齢者の心身ともに機能回復を図る。

③事業の内容

組織員所有の農地と市所有の休耕畑地を活用してリハビリ農園を開設し福祉施設入居者・利用者にリハビリ機能としての農作業の場を提供し、心と体の機能回復機会と生きがいを提供する。

また、リハビリ農園を地域住民へも開放し、認知症の施設利用者と交流を図ることにより、認知症への理解を深めてもらう。

④連携する医療福祉機関の取組内容

連携先であるNPO法人(介護事業)において、リハビリ農園での農作業による歩数の増加を計測し、社会参加による歩数変化と自立度改善の相関について観察する。また、歩行距離と高齢者の健康・介護度等の関係について、有識者による勉強会も開催する。

事例2 地元野菜を利用した加工食品の開発及び病院給食への導入

①事業実施主体

JA野菜部会 地場野菜出荷グループ

②事業の目的

生産者側(地場野菜の消費拡大)、病院側(病院給食における食材費のコストダウン)の両者のメリットを生み出すため、病院給食に合った野菜の加工品を開発する。

③事業の内容

JA厚生連病院と連携し、病院側のニーズに応じたトマトの加工品を開発。開発過程においては、病院給食として継続して利用してもらうため、患者に対する試食会を開催するなどにより患者の意見や病院の管理栄養士、調理師との検討を重ねて開発する。

④連携する医療福祉機関の取組内容

連携先であるJA厚生連病院において、トマト加工品を使用した病院給食のメニューを開発し、そのレシピ、マニュアルを作成する。また、高血圧患者を対象とした料理教室を開催し、地場産野菜、地場産野菜加工品のPRを行う。

事例3 医療福祉施設への新規給食材供給システムの開発

①事業実施主体

農業任意団体

②事業の目的

農業サイドでは病院の需要に沿った農産物を計画的に生産し、流通(ストック、加工、納入)に関与することで地域の医療・福祉に貢献し、医療福祉サイドでは「旬の美味しい施設内給食」の具体化を目指す。

③事業の内容

KT病院グループの需要に即した受注生産に向けて、路地・ハウス栽培により通年供給ができる生産物の検討・調査を行う。また、ストックや一次加工による納入方法についても研究する。

④連携する医療福祉機関の取組内容

連携先であるKT病院グループにおいては、現在、食材調達を含め、そのほとんどを外部委託業者が行っているが、今回の農業サイドの働きかけにより、旬の生産物を施設利用者に提供するため、「旬の美味しい施設内給食」のメニュー開発や調理システムの効率化を検討する。